

中部中学校だより

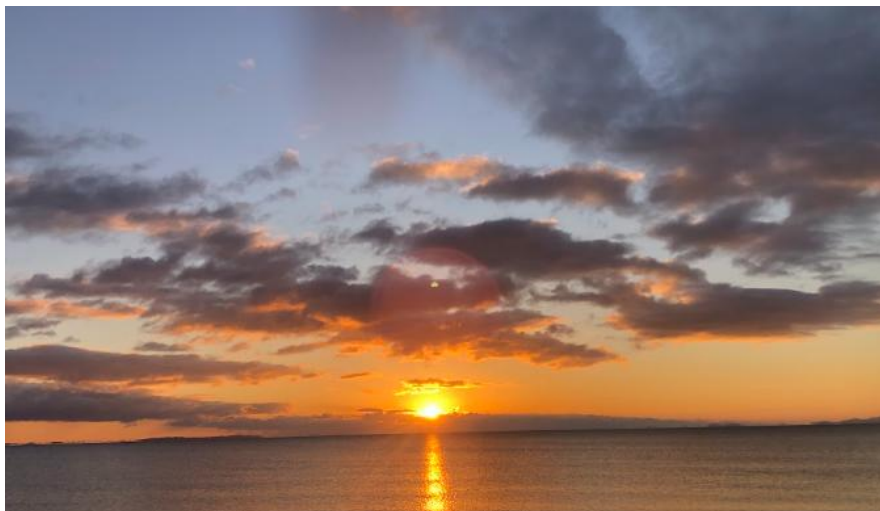
きずな

令和7年1月9日発行
第21号
亀山市立中部中学校
亀山市田村町75番地
☎：82-2101
文責：平野



新しい年を迎えました。本年もよろしく願いいたします。

さて皆様、新年をどのように迎えられたでしょうか。わたくしは、今年も、家族・愛犬とともに、自宅より車で10分ほどのマリーナ河芸より、初



日の出を見させていただきました。今年は、地平線の雲の関係で太陽が顔をのぞかせたのは、日の出時刻のおよそ10分後でしたが、その分太陽の光が伊勢湾や雲に反射し、いつもの年とは違った趣の日の出を拝むことができました。

2026年、今年は午年（うまどし）です。ところで、なぜ「うまどし」を「馬年」と表記せず「午年」と表記するのでしょうか？干支の十二支の漢字「子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥」は、約3000年前の中国・殷王朝の時代に日付の呼び名として登場しました。これらは、暦、時間、方角、さらに農作業の節目を示す抽象記号として民衆の間で使用されました。それが紀元前3世紀までには、より民衆に親しみが持てるように十二支に「ねずみ・うし・とら・うさぎ・たつ・へび・うま・ひつじ・さる・とり・いぬ・いのしし」の12の動物が対応付けられたということだそうです。十二支は、私たちの身近にも使われています。明治政府が「改暦ノ布告」を出す前には、時刻は十二支で数えており、午（うま）の刻が現在の午前11時ごろから午後1時ごろまでに当たることから、その中間の時刻（昼の12時）を「正午」と呼んだそうです。昼の12時の前を午前、後を午後というもここからきています。また、十二支は方角にも使われ、北は「子」南は「午」で示されました。社会科の時間にも学習しましたが、地球の北極と南極を結ぶ経度0度の経線を「本初‘子’‘午’線」というのもここからきています。

正月（1月7日「人日（じんじつ）の節句」）は季節の「節目」の1つとされています。午前と午後を分ける「午」は、1日の「節目」と言えますし、「本初‘子’

‘午’線」の起点「午」も地球上の「節目」に関わっています。そんな意味で「午」の年「午年」は大きな節目の年と言えるのかもしれません。

2 学期の終業式に本田技研工業の創業者である本田宗一郎さんの言葉「進歩とは反省の厳しさに正比例する」を紹介しました。

2026 年の正月の節句、午年の節目のこのときに、しっかりと自分自身をふりかえり、評価する部分は評価し、反省する部分は反省し、そして、自分自身の夢や目標に向けてと一歩一歩進んでほしいと思います。

幕末の長州藩士吉田松陰が残した有名な言葉の1つに「夢なき者に成功なし」があります。

**夢なき者に理想なし、理想なき者に計画なし、
計画なき者に実行なし、実行なき者に成功なし。
故に、夢なき者に成功なし。**

自分の「目標・計画」をたてることは、自分の「夢」「理想」を具体的にイメージすることであり、自分の「目標・計画」をたてるのが、自分の「夢」「理想」の実現に向けての「実現」への筋道へとつながります。「目標・計画」は、長期的なものもあれば、短期的なものもあると思います。例えば、今年の4月に自分がどのようになりたいかをイメージし、「目標・計画」を立てるとよいかも知れません。また、自分自身のこれまでの道のりをしっかりとふりかえり、反省・評価することで、より具体的な「目標・計画」を立てることができるかもしれません。

生徒の皆さん一人ひとりが自分の「夢」「理想」のイメージをもって、そのイメージの達成のために、今日からの1日1日をどのようにすすめるか、具体的に目標・計画を立て、実行してほしいと思います。

皆さんにとって、素晴らしい「節目」のスタートにしてください。